

文部科学省委託事業「リサーチ・アドミニストレーターに係る  
質保証制度の構築に向けた調査研究」シンポジウム

2019年12月23日

## 認定制度について

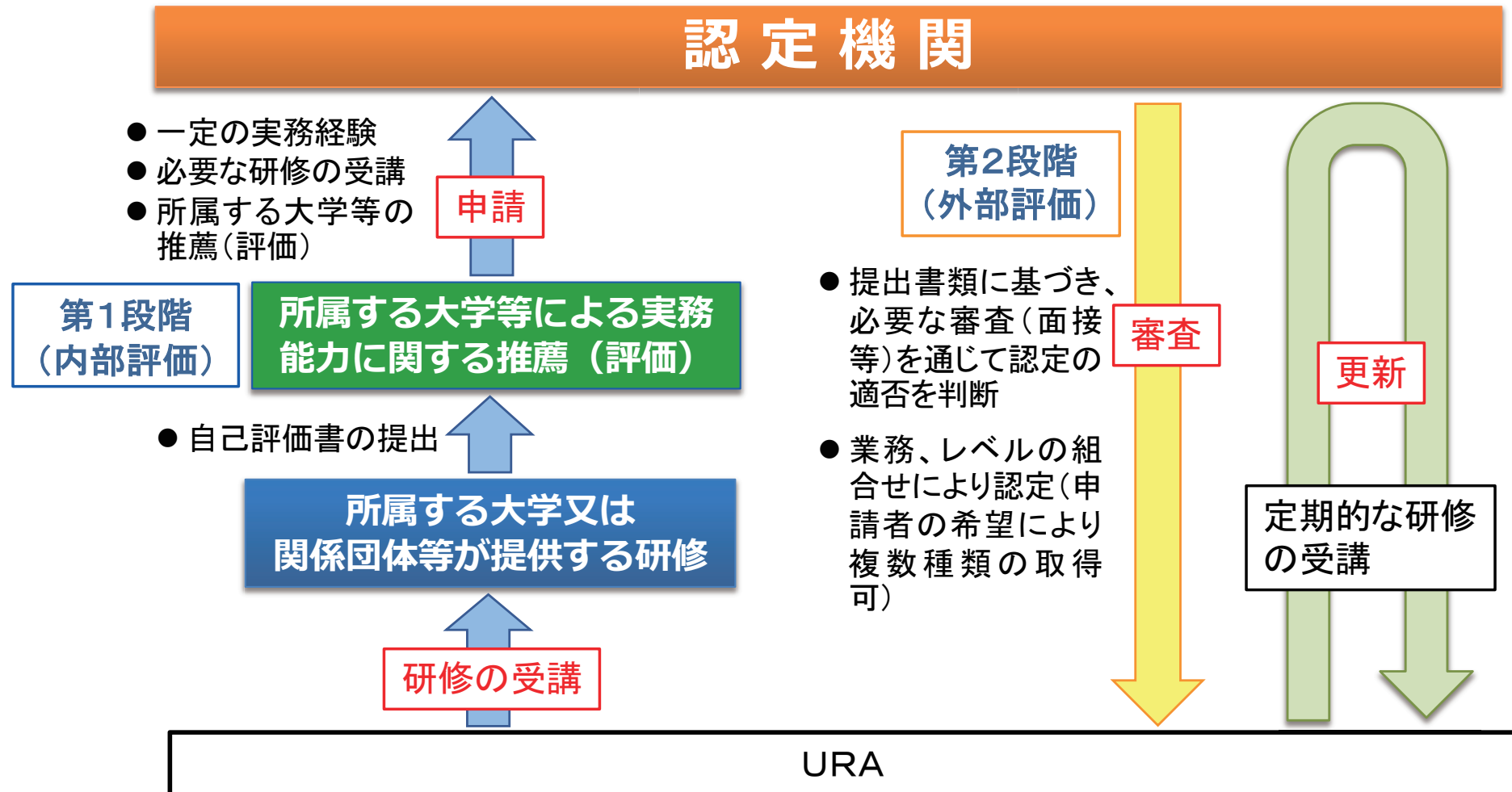
認定制度検討ワーキンググループ（WG2）

座長 池田 雅夫

# リサーチ・アドミニストレーターの質保証に資する認定制度の導入に向けた論点整理

p.42

## 認定のスキーム（イメージ）



### WG2の役割：このスキームの具体化

- 新規申請については後述の方向で試行予定
- 更新申請については検討中

## 認定制度の基本的考え方

申請者がURAの**人材像**に適合していることを判定する制度

認定URAの 人材像	URAとして関わる業務全般の知識を一定レベル以上備え、かつ大学等、我が国の研究組織での一つ以上の中核的業務*の経験を有し、研究者、研究グループの研究活動の活性化に主体的に関わる能力を備えた人材
認定専門URAの 人材像	URAとして十分な実績を有しており、一つ以上の中核的業務*に関する卓越した能力を備え、組織内外の関係者と協力して研究者、研究グループの研究活動の活性化に重要な位置付けで参与するとともに、組織の機能強化に貢献できる人材

\* 当該URAが主に従事している業務

**認定の基準はスキル標準※を土台として作成**（「論点整理」 pp.16-17より）

※ 平成25年度科学技術人材養成等委託事業「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備（スキル標準の作成）」成果報告書（東京大学）平成26年5月

- ◆ **スキル標準**：URA業務に必要とされる実務能力、すなわち、実際の業務遂行に必要な能力の標準（「成果報告書」 p.47より）
- ◆ **スキルの指標 = 業績（経験や実績） + 業務遂行能力（知識等に基づく理解力や問題解決能力）**（「成果報告書」 p.52より）

## 新規申請の書類と審査の形態（未定稿）

呼称と認定期間	申請要件	スキルの指標		スキルを観るための書類			審査
				申請者が提出	所属長(以上)が提出	推薦者が提出	
認定URA 5年	3年以上（または同等）のURA業務経験 + Coreレベルの研修プログラムの修了			申請書			書面審査  基準適合性を審査
		業績	経験	業務経験説明書	業務評価書		
		業務遂行能力	知識・理解力	Coreレベルの研修の修了証明書			
			問題解決能力	レポート(小論文)	業務評価書	推薦書	
認定専門URA 5年	申請時に認定URAであること + Advancedレベルの研修プログラムの修了			申請書			面接審査  卓越性を審査
		業績	実績	業務実績説明書	業務評価書		
		業務遂行能力	知識・理解力	Advancedレベルの研修の修了証明書			
			問題解決能力	レポート(小論文)	業務評価書	推薦書	

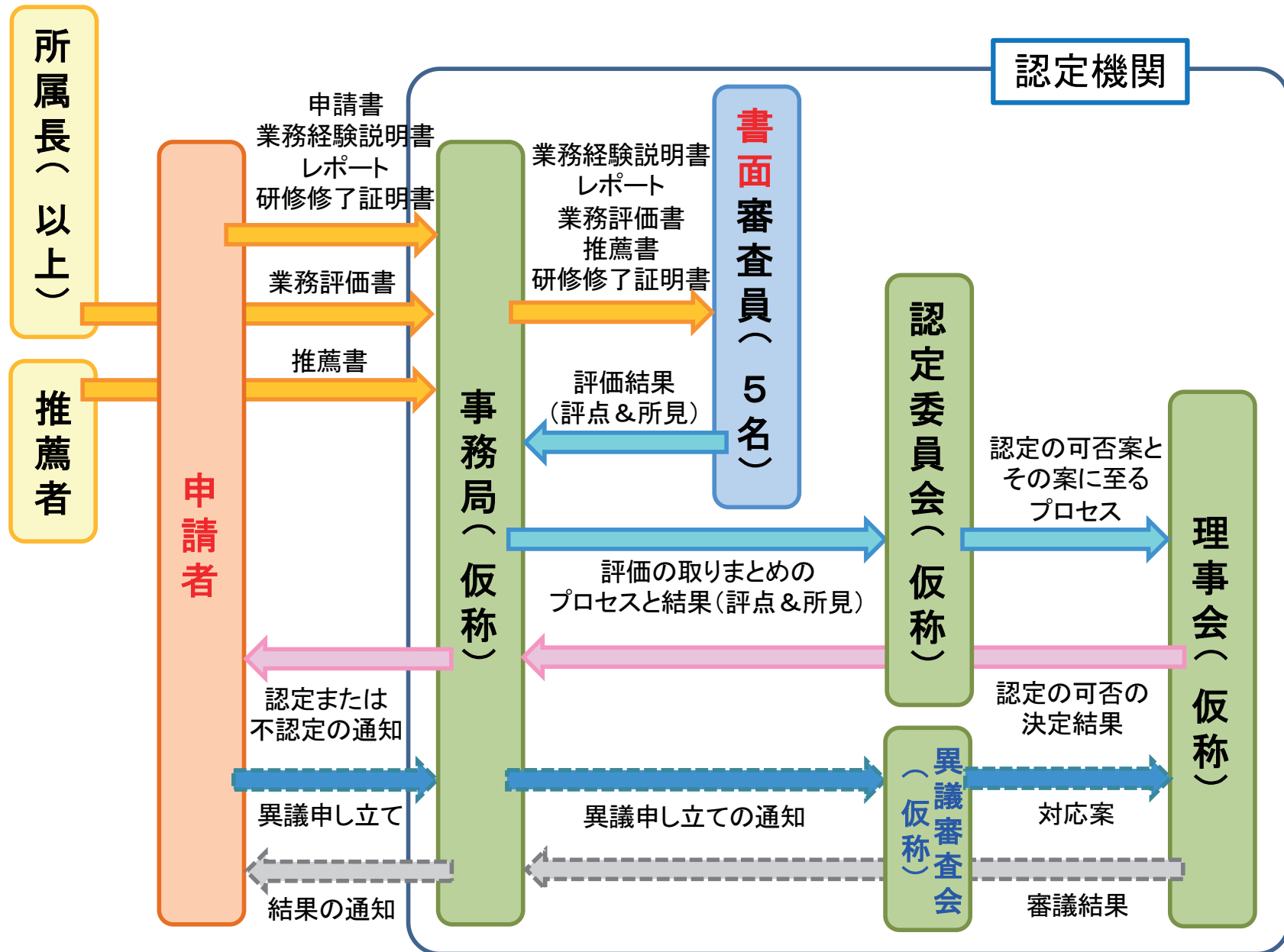
## 新規申請の書類の内容（未定稿）

呼称	書類名	書類の内容
認定 URA	申請書	申請書類の表紙：申請者、評価者、推薦者の氏名と連絡先
	業務経験説明書	申請者が過去3年間を中心に、URA業務の経験があることを説明
	レポート（小論文）	申請者が基準適合性の観点で、自身が認定URAの人材像を満たすことを主張
	業務評価書	所属長（以上）が過去3年間を中心に、申請者の業務経験を評価
	推薦書	申請者のURAとしての経験をよく知る推薦者が、申請者が認定URAの人材像を満たすことを業績に基づき記述
認定 専門 URA	申請書	申請書類の表紙：申請者、評価者、推薦者の氏名と連絡先
	業務実績説明書	申請者が過去5年間を中心に、URA業務の実績があることを説明
	レポート（小論文）	申請者が卓越性の観点で、申請した専門分野について、自身が認定専門URAの人材像を満たすことを主張
	業務評価書	所属長（以上）が過去5年間を中心に、申請者の業務実績を評価
	推薦書	申請者のURAとしての実績をよく知る推薦者が、申請者が認定専門URAの人材像を満たすことを業績に基づき記述

## 新規申請の審査の観点（未定稿）

呼称	評価項目	審査の観点
認定 URA	URA業務の 経験年数	大学等においてURAまたは関連業務の経験が3年以上あると認められるか（あるいは大学等以外を含めて、同等と認められる経験があるか）
	知識のレベル	URAとして関わる業務全般の知識を一定レベル以上備えているか
	URA業務の 経験の内容と量	大学等、我が国の研究組織におけるURA業務の経験を充分（内容と量）に有しているか
	主体的な 問題解決能力	研究者、研究グループの研究活動の活性化に主体的に関わる能力を備えているか
認定 専門 URA	URA業務の実績 （量と質）	大学等において、URAとして十分な実績（業務の量と質）を有しているか
	問題解決能力の 卓越性	申請されたURAの専門分野に関する卓越した能力を備えているか
	研究の活性化への 寄与	学内外の関係者と協力して研究者、研究グループの研究活動の活性化に重要な位置付けで寄与しているか
	組織の機能強化への 貢献	組織（機関、部局、URA組織等）の機能強化に貢献できているか

# 認定URAの新規認定手続（イメージ）（未定稿）



# 認定専門URAの新規認定手続（イメージ）（未定稿）

